

2021年4月期 2Q決算説明会

株式会社アインホールディングス
2020年12月10日

決算概要

連結P/L

売上高はM&Aを含む15店舗の新規出店及び前期出店が寄与したものの、新型コロナウイルス感染拡大の影響が長期化していることにより前期比99.7%、計画比99.1%となった。経常利益は売上高の減少により前期比51.6%、管理コスト等の削減により計画比101.3%となった。

(単位：百万円)	20/4期2Q 実績	21/4期2Q 計画	21/4期2Q 実績	前期 増減額	前期比 (%)	計画比 (%)
売上高	145,851	146,630	145,352	▲499	99.7	99.1
売上総利益	23,660	22,080	21,435	▲2,225	90.6	97.1
売上比 (%)	16.2	15.1	14.7			
販売管理費	15,305	17,800	17,508	2,203	114.4	98.4
売上比 (%)	10.5	12.1	12.0			
営業利益	8,354	4,280	3,927	▲4,427	47.0	91.8
売上比 (%)	5.7	2.9	2.7			
経常利益	8,762	4,460	4,517	▲4,245	51.6	101.3
売上比 (%)	6.0	3.0	3.1			
親会社株主に帰属 する四半期純利益	4,622	2,400	2,630	▲1,992	56.9	109.6
売上比 (%)	3.2	1.6	1.8			
1株当たり 四半期純利益 (円)	130.47	67.74	74.24	▲56.23	56.9	109.6

▶ 単位未満切り捨て

ファーマシー事業（連結）

売上高は新型コロナウイルス感染拡大の影響による処方箋枚数減少により前期比98.1%、計画比99.7%となった。セグメント利益は売上高の減少により前期比82.2%、管理コスト等の削減により計画比100.6%となった。

(単位：百万円)	20/4期2Q 実績	21/4期2Q 計画	21/4期2Q 実績	前期 増減額	前期比 (%)	計画比 (%)
売上高	130,499	128,420	128,029	▲2,470	98.1	99.7
売上総利益	17,390	15,280	15,008	▲2,382	86.3	98.2
売上比 (%)	13.3	11.9	11.7			
販売管理費	7,487	7,160	7,109	▲378	95.0	99.3
売上比 (%)	5.7	5.6	5.6			
営業利益	9,902	8,120	7,898	▲2,004	79.8	97.3
売上比 (%)	7.6	6.3	6.2			
セグメント利益	10,185	8,320	8,370	▲1,815	82.2	100.6
売上比 (%)	7.8	6.5	6.5			
店舗数	1,106	1,087	1,070	▲36	96.7	98.4

- ▶ 単位未満切り捨て
- ▶ セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っている
- ▶ 処方箋枚数 89.0% (前期比)
- ▶ 処方箋単価 110.2% (前期比)

リテール事業（連結）

売上高は5店舗の新規出店を行ったものの、新型コロナウイルス感染拡大に伴う休業、営業時間短縮により前期比71.7%、計画比98.8%となった。売上高の減少により、セグメント損失は1,014百万円となった。

(単位：百万円)	20/4期2Q 実績	21/4期2Q 計画	21/4期2Q 実績	前期 増減額	前期比 (%)	計画比 (%)
売上高	13,099	9,500	9,388	▲3,711	71.7	98.8
売上総利益	5,073	3,663	3,469	▲1,604	68.4	94.7
売上比 (%)	38.7	38.6	37.0			
販売管理費	4,649	4,423	4,596	▲53	98.9	103.9
売上比 (%)	35.5	46.6	49.0			
営業利益	423	▲760	▲1,127	▲1,550	-	-
売上比 (%)	3.2	-	-			
セグメント損益	442	▲759	▲1,014	▲1,456	-	-
売上比 (%)	3.4	-	-			
店舗数	60	66	63	3	105.0	95.5

- ▶ 単位未満切り捨て
- ▶ セグメント損益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っている
- ▶ 客数 75.3% (前期比)
- ▶ 客単価 95.2% (前期比)

連結B/S

ネットキャッシュは40,537百万円、自己資本比率は56.0%となり、コロナ禍においても健全な財務体質を維持している。

(単位：百万円)

20/4期末			
資産の部		負債・純資産の部	
流動資産	87,802	流動負債	74,700
現預金	46,321	短期借入金	3,642
		リース債務	193
固定資産	105,632	固定負債	7,747
のれん	42,123	長期借入金	2,432
		リース債務	154
繰延資産	15	純資産計	111,003
資産合計	193,451	負債・純資産合計	193,451

(単位：百万円)

21/4期2Q末			
資産の部		負債・純資産の部	
流動資産	94,006	流動負債	73,275
現預金	54,616	短期借入金	4,694
		リース債務	137
固定資産	105,514	固定負債	14,526
のれん	40,563	長期借入金	9,165
		リース債務	82
繰延資産	-	純資産計	111,719
資産合計	199,521	負債・純資産合計	199,521

ネットキャッシュ 39,899

自己資本比率 (%) 57.3

ネットキャッシュ 40,537

自己資本比率 (%) 56.0

▶ 単位未満切り捨て

▶ ネットキャッシュ = 現預金 - 有利子負債 (短期・長期借入金 + リース債務)

資産の部

現金及び預金が増加したことにより、総資産は20/4期末より6,070百万円増加した。

(単位：百万円)	20/4期2Q末	20/4期末	21/4期2Q末	増減額
現金及び預金	44,441	46,321	54,616	8,295
受取手形及び売掛金	14,932	13,653	11,953	▲1,700
棚卸資産	14,439	15,322	14,796	▲526
流動資産合計	84,230	87,802	94,006	6,204
建物及び構築物	16,558	16,609	16,225	▲384
土地	10,658	10,960	10,409	▲551
リース資産	415	272	166	▲106
有形固定資産合計	30,901	30,874	30,169	▲705
のれん	43,119	42,123	40,563	▲1,560
リース資産	6	5	3	▲2
無形固定資産合計	45,761	44,916	43,715	▲1,201
投資有価証券	2,096	2,295	2,335	40
繰延税金資産	4,260	4,211	4,315	104
敷金及び保証金	15,401	19,144	19,493	349
投資その他の資産合計	26,836	29,841	31,629	1,788
固定資産合計	103,499	105,632	105,514	▲118
繰延資産計	37	15	-	▲15
資産合計	187,767	193,451	199,521	6,070

借入による増加

▶ 単位未満切り捨て ▶ 投資総額（有形及び無形固定資産＋敷金・保証金）は3,541百万円 ▶ 増減額：20/4期末・21/4期2Q末比較

負債・純資産の部

投資目的による借入の実施により、負債合計は20/4期末より5,355百万円増加した。

(単位：百万円)	20/4期2Q末	20/4期末	21/4期2Q末	増減額
買掛金	45,639	47,187	45,619	▲1,568
短期借入金	4,555	3,642	4,694	1,052
リース債務	254	193	137	▲56
流動負債合計	71,885	74,700	73,275	▲1,425
長期借入金	4,079	2,432	9,165	6,733
リース債務	269	154	82	▲72
固定負債合計	9,301	7,747	14,526	6,779
負債合計	81,186	82,447	87,802	5,355
資本金	21,894	21,894	21,894	-
資本剰余金	20,500	20,500	20,500	-
利益剰余金	64,200	68,758	69,439	681
株主資本合計	106,594	111,151	111,832	681
純資産合計	106,580	111,003	111,719	716
負債純資産合計	187,767	193,451	199,521	6,070

M&A等の
投資目的
の借入

▶ 単位未満切り捨て

▶ 増減額：20/4期末・21/4期2Q末比較

連結CF

大型店を中心とした新規出店を推進し、営業キャッシュフローが6,441百万円となったことに加え、借入による調達を行ったことにより、現金及び現金同等物四半期末残高は前期より10,257百万円増加と潤沢なキャッシュを備えている。

(単位：百万円)	20/4期2Q	21/4期2Q	増減額
営業キャッシュフロー	6,024	6,441	417
税金等調整前四半期純利益	8,439	4,524	▲3,915
減価償却費	1,928	2,024	96
のれん償却額	2,182	2,225	43
売上債権増減額 (▲は増加)	▲2,104	1,818	3,922
棚卸資産増減額 (▲は増加)	▲1,530	567	2,097
未収入金増減額 (▲は増加)	336	▲992	▲1,328
仕入債務増減額 (▲は減少)	765	▲1,668	▲2,433
投資キャッシュフロー	▲4,361	▲3,759	602
有形・無形固定資産取得による支出	▲3,448	▲2,974	474
子会社株式取得による支出	▲148	▲257	▲109
財務キャッシュフロー	▲5,100	5,702	10,802
現金及び現金同等物増減額	▲3,436	8,385	11,821
現金及び現金同等物四半期末残高	44,059	54,316	10,257

▶ 単位未満切り捨て

事業価値分析

	20/4期2Q	20/4期	21/4期2Q	増減
自己資本比率 (%)	56.7	57.3	56.0	▲0.7
時価ベースの自己資本比率 (%)	117.0	110.4	129.6	12.6
株価収益率 (倍) PER	23.76	23.27	49.17	25.41
1株当たり当期純利益 (円) EPS	130.47	259.11	74.24	▲56.23
株価純資産倍率 (倍) PBR	2.06	1.92	2.31	0.25
1株当たり純資産 (円) BPS	3,006.46	3,130.77	3,151.54	145.08
総資産利益率 (%) ROA	2.5	4.8	1.3	▲1.2
株主資本利益率 (%) ROE	4.4	8.5	2.4	▲2.0
EBITDA (百万円)	12,466	24,513	8,176	▲4,290
EV/EBITDA倍率 (倍)	14.86	7.11	26.74	11.88
ネットD/Eレシオ (倍)	▲0.33	▲0.36	▲0.36	▲0.03
ネットキャッシュ (百万円)	35,282	39,899	40,537	5,255
株主価値 (百万円)	220,471	214,258	259,191	38,720
時価総額 (百万円)	219,650	213,627	258,619	38,969

▶ 単位未満切り捨て ▶ 増減：20/4期2Q・21/4期2Q比較

▶ ネットD/Eレシオ = (有利子負債 - 現金及び預金) / 株主資本

▶ 株主価値 = EV (時価総額 + 有利子負債 - 余剰現金) - ネット有利子負債

▶ 時価総額：自己株式を除く

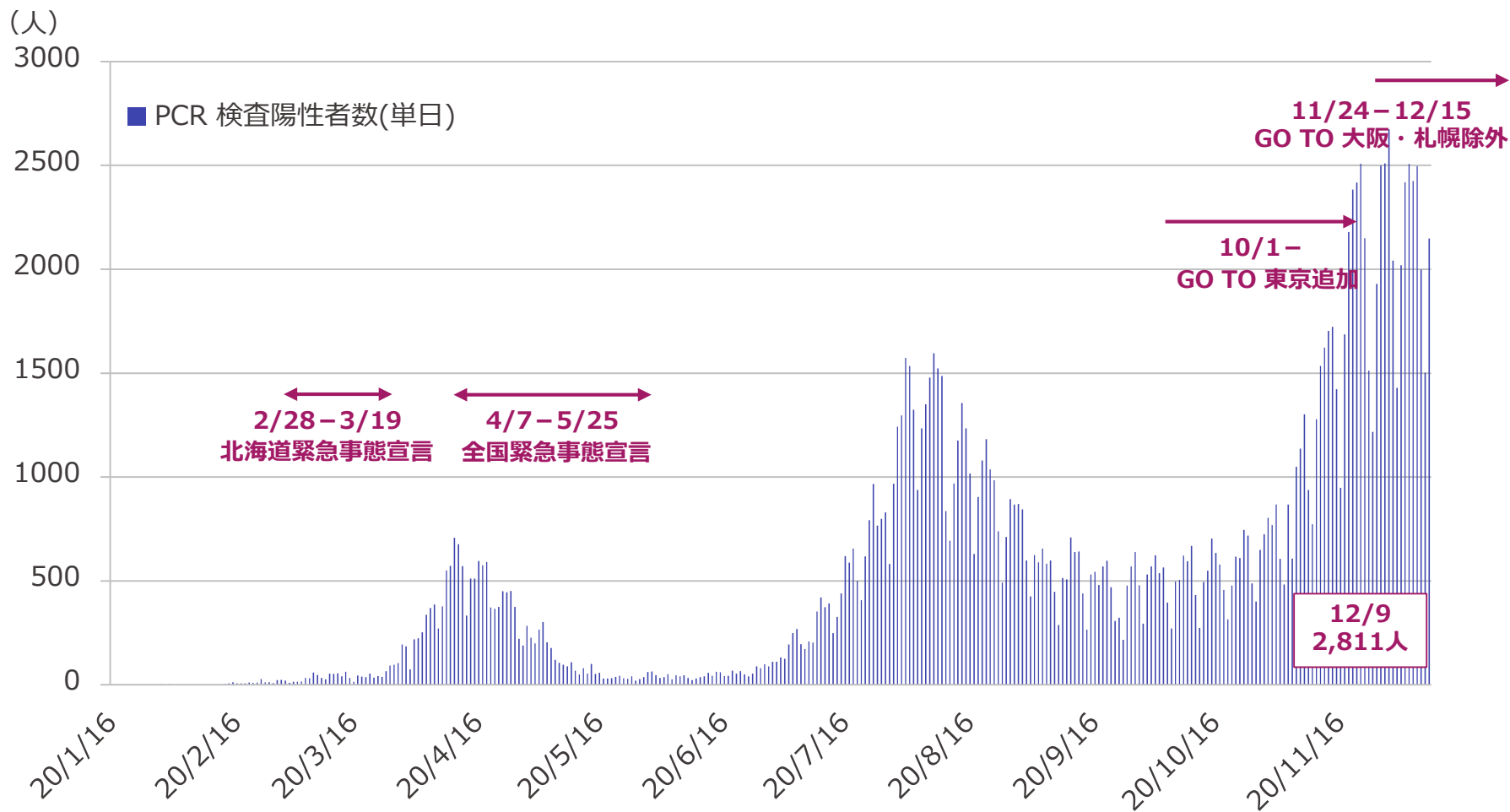
▶ 時価総額算出株価：20/4期2Q末6,200円 (19/10月末) 20/4期末6,030円 (20/4月末) 21/4期2Q末7,300円 (20/10月末)

▶ ネットキャッシュ = 現金及び預金 - 有利子負債 (短期・長期借入金 + リース債務)

Review

国内新規感染者数

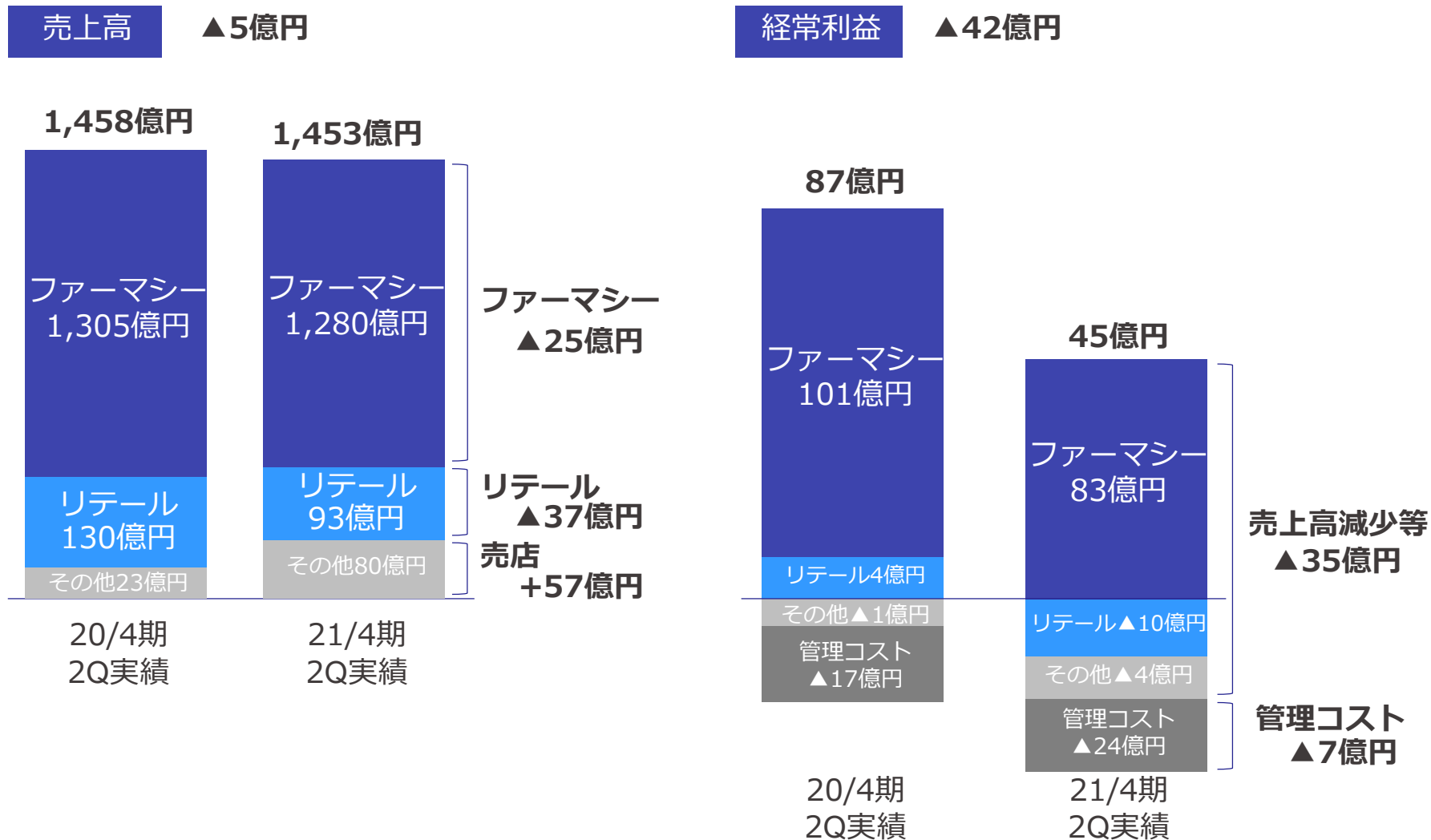
12月8日現在、国内での新型コロナウイルス感染者数は165,410例、死亡者数は2,419人となった。



▶ 厚生労働省新型コロナウイルス感染症についてのオープンデータより

連結 対前期比較

出店コスト及び新入社員の労務コスト等を吸収できず、経常利益は42億円の減益となった。



修正計画

21/4期修正計画（ファーマシー）

新型コロナウイルス感染症による影響の長期化により、21/4期の計画を、売上高前期比100.4%、セグメント利益前期比87.3%に修正する。

(単位：百万円)	20/4期 実績	21/4期 当初計画	21/4期 修正計画	前期比 (%)	当初計画比 (%)
売上高	263,750	268,400	264,800	100.4	98.7
売上総利益	34,960	34,860	32,400	92.7	92.9
売上比 (%)	13.3	13.0	12.2		
販売管理費	14,664	14,400	14,900	101.6	103.5
売上比 (%)	5.6	5.4	5.6		
営業利益	20,295	20,460	17,500	86.2	85.5
売上比 (%)	7.7	7.6	6.6		
セグメント利益	20,850	20,860	18,200	87.3	87.2
売上比 (%)	7.9	7.8	6.9		
店舗数	1,088	1,120	1,063	97.7	94.9

▶ 単位未満切り捨て

▶ セグメント利益は、連結損益計算書の経常利益と調整を行っている

21/4期修正計画（リテール）

新型コロナウイルス感染症による影響の長期化により、21/4期の計画を、売上高前期比81.0%、セグメント損益▲2,200百万円に修正する。

(単位：百万円)	20/4期 実績	21/4期 当初計画	21/4期 修正計画	前期比 (%)	当初計画比 (%)
売上高	24,701	25,000	20,000	81.0	80.0
売上総利益	9,753	9,700	7,330	75.2	75.6
売上比 (%)	39.5	38.8	36.7		
販売管理費	9,596	9,600	9,680	100.9	100.8
売上比 (%)	38.8	38.4	48.4		
営業利益	157	100	▲2,350	-	-
売上比 (%)	0.6	0.4	-		
セグメント損益	262	110	▲2,200	-	-
売上比 (%)	1.1	0.4	-		
店舗数	63	73	69	109.5	94.5

▶ 単位未満切り捨て

▶ セグメント損益は、連結損益計算書の経常利益と調整を行っている

21/4期修正計画（連結）

新型コロナウイルス感染症による影響の長期化により、21/4期の計画を、売上高前期比102.5%、経常利益前期比59.4%に修正する。

(単位：百万円)	20/4期 実績	21/4期 当初計画	21/4期 修正計画	前期比 (%)	当初計画比 (%)
売上高	292,615	311,000	300,000	102.5	96.5
売上総利益	46,861	51,070	45,400	96.9	88.9
売上比 (%)	16.0	16.4	15.1		
販売管理費	30,793	36,470	36,200	117.6	99.3
売上比 (%)	10.5	11.7	12.1		
営業利益	16,068	14,600	9,200	57.3	63.0
売上比 (%)	5.5	4.7	3.1		
経常利益	16,822	15,000	10,000	59.4	66.7
売上比 (%)	5.7	4.8	3.3		
親会社株主に帰属 する当期純利益	9,179	8,200	5,000	54.5	61.0
売上比 (%)	3.1	2.6	1.7		
1株当たり 当期純利益 (円)	259.11	231.46	141.13	54.5	61.0
年間配当金 (円)	55.00	55.00	55.00	100.0	100.0

▶ 単位未満切り捨て

Strategy

Strategy

トップライン拡大

- ファーマシー事業 **下期M&Aを含め28店舗**出店見込（通期38店舗）
- リテール事業 **下期 6店舗**出店見込（通期11店舗）

人員適正化

- 来期も**新卒薬剤師550人**を採用見込
- 派遣社員及び中途入社はすでに採用を中止
効率の良い人員配置を進め、ナショナル社員の採用を強化していく

経営基盤の強化

- サステナビリティ経営の推進
- ICT及び物流部門における専門人材の確保
- RPAによる業務効率化の推進
- 公式アプリ及びECサイト拡充による顧客サービス向上
- トップライン拡大を見越した物流システムの構築

トップライン拡大

ファーマシー事業

- **大型薬局の出店を最優先**
- マンツーマン薬局の出店
- 医療モールの開発
- M&Aの推進

リテール事業

- **アインズ&トルペの拡大の継続**
準都市型店舗の出店を積極的に加速
- ECの拡充

トップライン

21/4期2Qは、M&Aを含む新規出店15店舗、閉店33店舗となった。

■ 総店舗数

1,133店舗（ファーマシー1,070店舗、リテール63店舗）

■ 出退店進捗

		21/4期2Q		21/4期通期	
		計画	実績	当初計画	修正計画
出店	ファーマシー	12	10	50	38
	うちオーガニック	5	4	28	16
	M&A	7	6	22	22
	リテール	5	5	12	11
合計		17	15	62	49
閉店	ファーマシー	13	28	18	47
	リテール	2	5	2	5
	合計	15	33	20	52

■ ファーマシー出退店推移

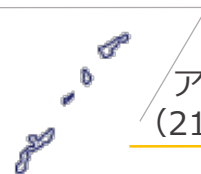
	13/4期	14/4期	15/4期	16/4期	17/4期	18/4期	19/4期	20/4期	21/4期2Q
オーガニック	38	36	40	32	27	25	23	14	4
M&A	38	26	119	110	182	11	134	6	6
EV/EBITDA倍率	5.09	3.94	4.77	5.37	5.50	3.96	4.88	3.71	3.63
閉店	10	6	21	15	24	73	54	64	28
うち譲渡	-	1	1	1	2	32	30	42	22
店舗数	560	616	754	881	1,066	1,029	1,132	1,088	1,070

▶EV/EBITDA倍率=EV（M&A：買収価格）/EBITDA（営業利益+減価償却費）

アインズ&トルペの拡大

アインズ&トルペ
通期出店計画

11

店舗

アミュプラザ熊本店
(21/4月オープン予定)

札幌国際ビル店 (20/12/1オープン)



仙台 (計画中)



東急プラザ戸塚店
(20/9/18オープン)

大丸京都店 (20/6/5オープン)

大丸梅田店 (20/6/5オープン)

日比谷シャンテ店 (20/7/10オープン)

光が丘IMA店 (20/12/8オープン)

立川 (計画中)

名古屋 (計画中)



さんすて岡山店
(20/9/16オープン)

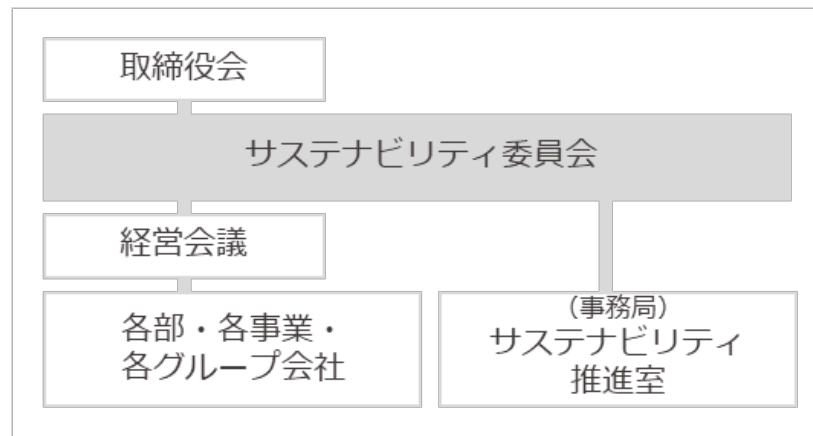


サステナビリティ経営の推進

21/4期よりサステナビリティ推進室を新設、11月にはサステナビリティ委員会を設置した。代表取締役社長を委員長として、サステナビリティ経営を推進していく。

■ サステナビリティ経営の推進体制

委員長を代表取締役社長、副委員長を代表取締役専務、基幹グループ会社社長、各部門統括役員等を委員として構成し、当社グループのサステナビリティ推進の方針や施策の策定、推進体制の構築と整備、重要指標のモニタリング等を行い、経営トップのコミットメントのもと、CSR・ESG活動のさらなる強化を図っていく。



推進体制

■ 社外広報の強化

当社のサステナビリティ経営に関する取り組みをステークホルダーの方々にご覧いただくため、ホームページへの掲載情報の充実、社外広報の強化や統合報告書の作成に取り組んでいく。



ホームページの充実

本件に係る照会先

**株式会社アインホールディングス
経営企画室**

TEL011-814-0010

FAX011-814-5550

<https://www.ainj.co.jp/>

事前に株式会社アインホールディングスの許可を書面で得ることなく、本資料を転写・複製し、又は第三者に配布することを禁止いたします。本資料は、情報の提供のみを目的として作成されたものであり、特定の証券の売買を勧誘するものではありません。本資料に記載された事項の全部または一部は、予告なく修正・変更されることがあります。本資料には、将来の業績に関する記述が含まれておりますが、これらの記述は将来の業績を保証するものではなく、経営環境の変化等により、実際の数値と異なる可能性があります。